

2016-05-12 前回感想・疑問等、それへのコメント

1. a. 『アイヒマン・ショー』は私も気になる映画です。B.アイヒマンという人物が出ましたが、世界史に関して無知なので調べてみようと思いました。
2. .アイヒマンンについての裁判も映像で見ると、とてもインパクトがあり、なぜこうしも落ち着いているんだろうと思った¹。
3. なぜナチス、ヒトラーはユダヤ人を大量虐殺したかについて²、今年の冬に FW を通して学んできたつもりであったが、明確に説明できる自信がない。ドイツ内の不況にもかかわらず、歴史的、宗教的いきさつから金融業³をなりわいとしていたユダヤ人が裕福だった⁴ことに対する反感、間違っただ民族主義⁵、他国との戦争によるさまざまな問題から国民の目をそらすためなど、多くの事象と思想が複雑に絡んでいるように思われる。これについて授業でもっと詳しく学べたらいいなと思う。
4. ヒトラーが、「ユダヤ人はボルシェヴィキと関係している」と考えていた⁶という背景があるこ

¹ これもまさに重大な問題点。この「なぜ」を考えてみるのも、期末報告の重要なテーマの一つとなると思われる。映画のなかでは直接は出てこないが、世界的に有名なハンナ・アーレントという女性哲学者が、裁判を傍聴して書いた『イェルサレムのアイヒマン』（翻訳あり）を読んでもみるのも、参考になるかも。

² ヒトラー・ナチスの思想・運動は、第一次世界大戦、ドイツのその敗戦から生まれでた。第一次大戦をどのようにとらえるか？ヒトラー・ナチスのとらえ方は何か？少なくとも、ヒトラーの『わが闘争』を読んでみなければならぬだろう。（私の[解説 HP](#) 参照）

第一次大戦の原因、敗戦の原因などをユダヤ人に「責任あり」、それらの罪はすべて究極のところ、ユダヤ人に「還元できる」とする世界観・社会観が、ヒトラー・ナチスの考え方。

³ 反ユダヤ主義のさまざまな流れ・・・キリスト教社会で 2000 年にわたる宗教的土壌

① ユダヤ教 対 キリスト教・・・ユダヤ教(旧約聖書)の土壌・環境の中から、その批判者としてキリストが新しい福音を解く。宗教革命としてのキリストの教え。

② そもそも人々が宗教に求めるものは何か？ 現実の生活の苦しさ・不安・悩み・危険・怒り・死(死後)への不安、その他からの解放・・・観念・意識の中で。基礎にある現実の苦しさ等とその観念のなかでの解決。

⁴ ユダヤ人は本当に「裕福だった」のか？ 大量殺害の対象となったユダヤ人の圧倒的多数は、ソ連やポーランドのユダヤ人（ユダヤ人統計および犠牲者数統計参照）であり、「裕福」ではなかった。農村社会の「隙間」に生活するといわれるように、農村的農業的สังคมで、小売商・行商などを手始めに、商業的(必然的に金融的)な仕事に従事。伝統的農村社会では、商業(金融)は、「賤しい職業」。

⁵ 民族主義が、反ユダヤ主義と結びつけられる・・・ヒトラー・ナチスの人種主義的民族主義＝世界の諸人種・民族を階層的に優秀と劣等に分けてみる。その階層的理解(世界観)において、ユダヤ人は世界諸民族のなかで最劣等民族と位置付けられる。ヒトラーは、アーリア人種(その中のドイツ民族)を最高に位置づけ、スラヴ人、アジア人などを下に置き、最下等にユダヤ人を置く。ヒトラーの『わが闘争』においては、日本人など黄色人種も、低い位置づけ・・・戦前の同盟国日本の翻訳では、都合の悪いこの部分は削除。

⁶ ユダヤ＝ボルシェヴィズム、という考えは、ヒトラー・ナチスの**根本思想**の一つ。

ポーランド、ソ連を占領したナチス・ドイツ軍は、ユダヤ人からポーランド人やソ連の人々を救うのだ、解放するのだという看板・宣伝文句を掲げた。しかし、実際には、ソ連を占領し、ドイツ支配下に置くということが根本目標であった。東方大帝国建設の構想。

とを知りませんでした。独ソ戦とホロコーストとが大きく関係⁷しているということについても。

5. 白ロシア・ウクライの犠牲者の絶対数を見たことで、独ソ戦のイメージが変わりました。ルターが反ユダヤ主義の人というのは、初めて知って驚きました⁸。
6. アインザッツグルッペンは（日本の）憲兵隊と活動が似ているなあと感じたが、ユダヤ人とそうでない人とで住み分けていた⁹ののだろうか？
7. 身近な友人にキリスト教信者がいるので、すごく考えてしまう¹⁰。
8. アインザッツ・グルッペ（特別出動部隊）が、大人はまだしも、子供まで見境なく殺しているのは残忍さを感じます¹¹。
9. 今日の講義でパブロ・ピカソの『ゲルニカ』の話が出てきたが、ピカソはゲルニカでの収益（絵葉書や展覧会・博物館美術館出展などによる）を人民戦線政府に寄付していたという話を聞いたことがある。どれほどそれがスペイン内戦に影響していたのか気になった。また、絵のきっかけとなったゲルニカ爆撃だどのようなことだったか、調べてみたいと思った。反戦絵画からヨーロッパの戦争を知っていくということをやってみたい¹²。

7 「戦争の責任者ユダヤ人に命で償わせる」(ヒトラー)、ユダヤ人問題「パルチザンとして根絶」(ヒムラー)

8 ルターは、カトリックに対する抗議＝宗教革命を行った人で、その主たる主張の一つが、「福音主義」といわれるように、イエス・キリストの説いた福音そのものに立ち返れ、というもの。その福音そのものを民衆が自分の言葉で理解できるように、ドイツ語訳聖書(新約聖書)を作った。イエスの教えが書かれた「新約聖書」を読めば、古代から続くユダヤ教に対する批判が明確に出ている。宗教改革＝宗教革命としてのイエス・キリストの教え。

9 中世都市などでは、ユダヤ人が集中して住むユダヤ人街があった。日本の江戸時代に宗門人別帳が作られ、各個人家族の宗教所属が明確に分けられていたように、ヨーロッパでも宗教ごとに属する教会が違っていた。ユダヤ人はシナゴグといわれるユダヤ教徒の宗教施設(寺にあたる)に属していた。だれがどの宗教でどこの教会に属していたかは、伝統的社会であればあるほど、非都会的社会であればあるほど、明確にわかる。それらをもとにしたユダヤ人統計 (ヴァンゼー会議時点の生存者統計)

10 現在の世界の多くのキリスト教徒は、宗教的反ユダヤ主義が一つの重要な要因となってホロコーストが起きたことを深く反省している。その点についてのたくさんの研究書がある。民族主義的でないキリスト教徒は、むしろナチスの主張に反対し、抵抗した。この問題を調べてみるのも、期末報告のいいテーマになると思う。周りのキリスト教徒にユダヤ教をどのように考えているか、ホロコーストをどのように見ているか、尋ねてみるのも、問題意識を明確にしていくうえで貴重かもしれない。

11 アインザッツグルッペのソ連占領地からの報告書 (永岑の市民講座 HP の一つにその具体例)に、次々と子供などの射殺が報告されるようになる。後のポーランドの絶滅収容所でも、多くの子供が一緒に殺された。

12 素晴らしい問題意識・・・いい期末報告のテーマの一つですね。